

第12回「日本語大賞」

テーマ「心にひびいた言葉」

小学生の部 文部科学大臣賞 受賞作品

「おとうさんにもらったやさしいうそ」

茨城県

古河市立古河第二小学校

一年 佐藤 亘紀

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

おとうさんにもらったやさしいうそ

古河市立古河第二小学校 小学一年

佐藤 亘紀(さとう・こうき)

ぼくのころにひびいたことは、「おとうさんはちよつとおいころでしごとをすることになったから、おかあさんとげんきにすごしてね。」です。そのときぼくは二さいでした。とても小さかったのぢやくせついわれたのはおぼえていませんが、いつてくれたときのどうがおかあさんのスマホにいまでものこっているの、すきなときにきくことができます。

このふつうにおもえることばがぼくのころにひびいたりゆうは、じつはこれがおとうさんがついたらそだったからです。このことばの一しゆうかんごに、おとうさんははつけつびようでしんでしまいました。そして、このことばをおとうさんがのこしたのはびようきがわかってにゆういんした日でした。おとうさんは、あえないあいだにぼくがかなしまないように、わざとうそをつきました。うそはふつうよくないけど、これは、おとうさんがぼくのためについてくれたやさしいうそだとおもいます。このことばをどうができくと、おとうさんにあつてみたくてすこしかなしいきもちになります。でもかなしいだけじゃなく、かなしませないようにうそをついて

くれたおとうさんのやさしさをおもつて「がんばろう！」とおもえます。おとうさんがしんでしまったことはしっているけど、おとうさんのうそがほんとうになって、いつかやるおそくにドアのまえで「ドアをあけて。かえつてきたよ。」といっているおとうさんにあいたいです。こうおもえるのも、おとうさんのやさしいうそのおかげです。

ぼくからおとうさんにつたえたいことがあります。「おとうさん、うそがばれてるよ！ だつてまわりにびよういんのどうぐがいっぱいあるし、おとうさんがよこになっているし、めからなみだがちよつただけでているし、こえがさびしそうだから。」でもぼくは、だまされているふりをしつづけようとおもいます。

おとうさんがやさしいうそをついてくれたおかげで、ぼくのころはつよくなれています。これからおとうさんのことばをまもつておかあさんとげんきにすごしたいです。おとうさん、やさしいうそをありがとうございます。